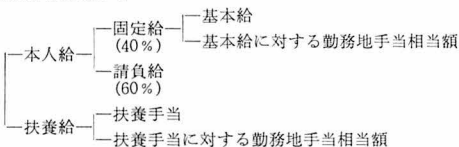


る。

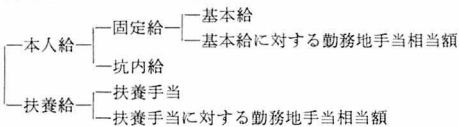
2 現在志免鉱業所では、職員を一般職員と労務職員に區別し、一般職員（鉱業所長が一定の資格要件を満たしている者のうちから一定数だけ指定する）については、一般国鉄職員におけると同様な形態をとり入れ、労務職員については、民間炭鉱労働者におけると同様な形態をとり入れている。すなわち坑内労務職員の基準賃金平均月額 640 円を基礎として、直接夫（採掘員）対間接夫（採掘員を除いた労務職員）は 200 対 161、坑外夫対坑内夫は 100 対 138 の比率になるよう考慮して基準賃金が定めてある。また採掘員については請負給制度をとり入れ、固定給 40%、請負給 60% に区分されている。

賃金形態はつぎのようになっている。

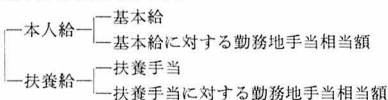
(1) 採掘員（直接夫）



(2) 採掘員を除く坑内労務職員（坑内間接夫）



(3) 坑外労務職員（坑外夫）



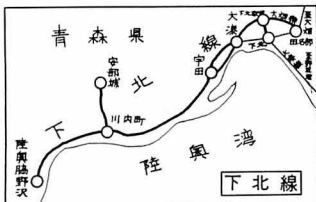
3 基本給表も労務職員を採掘員とその他の労務職員の 2 本建としている。また坑内の労務職員に対しては恩給、共済組合諸給付、同掛金、一般の場合に賃金の減額をしない欠勤に対して支払っている不就業日賃金、および退職手当の基準となる基本給額を別に定めて、社会保障制度の適用を受ける際に、一般職員より不利益とならないようになっている。

採掘員の請負給についても、職務内容によって区分し採炭・掘進・修繕とおのおの請負給基準日額を異にして定められている。

昇給についても一般の国鉄職員と同様な方法をとっているが、労務職員は基本給表も賃金形態も異なっているため、若干一般職員と異なった取扱となっている。

職が異動したときの基本給の調整や、職名別の最低最高号はう等も定められていることは鉄道一般と同様である。（武尾新次）

しもきたせん 下北線 大湊線の田名部駅を起点とし、大湊および川内町を経て陸奥野沢駅（青森県下北郡野沢村）を終点とする国鉄自動車路線で、これを所管する大湊自動車営業所と同県下北郡大湊町に設置している。



1 区間・キロ程および沿革

田名部・陸奥野沢	45 km	昭 18・9・15 開業
下北・下北駅前	1	"
大湊・宇田	4	昭 28・10・14
川内町・安部城	7	"

2 営業範囲 旅客・手小荷物および貨物の運輸営業を行っている。

3 接続駅および業務委託駅 (1) 接続駅 田名部、大湊、下北。(2) 業務委託駅 宇曾利川、角達、川内町、宿野部、陸奥野沢。

4 使命 下北地方の交通を確保し産業の開発振興をはかる目的で、昭和 18・9 に開設された。

冬期は積雪が多いので、例年 1 月から 4 月上旬までは、宇曾利川以遠を運転休止していたが、昭和 29 年度からブルドーザーを使用して、田名部・川内町間は通年運転ができるようになった。

5 特 長 路線は下北半島の南岸にそって走り、風光も勝れ、この一帯は海水浴場に適している。大湊は旧海軍軍港の所在地、恐山は大湊北方約 12 km の地点にあり、日本 3 霊場の 1 つとされている。（福田幸市）

しもついでんてつ 下津井電鉄

1 事業者の概要

名称 下津井電鉄株式会社、本社 岡山県児島市味野、資本金 9,000 万円、おもな事業 地方鉄道、旅客自動車運送（一般乗合 96 km、一般貸切、一般乗用）鉄道従事員 113 人、保有車両 電動客車 8、客車 12、貨車 25 両。

沿革 国鉄宇野線茶屋町より児島半島南端下津井港を結ぶ蒸気鉄道として計画され、明治 43 年免許、同 44・8・2 資本金 30 万円で会社設立、大正 3 年全線開業、昭和 24・5 旅客列車を、同年 8 月貨物列車を電化し現在にいたる。

2 地方鉄道線

国鉄宇野線茶屋町駅に連絡、下津井・茶屋町間 21 km 単線、旅客・貨物運輸を目的とする。動力電気、軌間 0.762 m、明治 43・11・9 免許、大正 2・11・11 下津井・味野間を、同 3・3・15 味野・茶屋町間を運輸開始。



3 運輸概況

項 目	年 度	昭 和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)		2,632	2,532	2,527
人 キ ロ (千)		19,768	19,048	18,689
貨物輸送トン数(千 t)		7	8	8
ト ン キ ロ (千)		89	92	98
旅客収入(千円)		67,541	68,612	70,187
貨物収入(〃)		5,817	6,216	6,756
運輸雑収(〃)		221	180	146
収 入 合 計 (〃)		73,580	75,008	77,089
営 業 費 (〃)		71,560	60,438	70,632
営 業 利 益 (〃)		2,021	14,569	6,457
営 業 係 数 (%)		97	81	92

(原 功)

しもやまさだのり 下山定則 日本国鉄の初代総裁。兵庫県の、大正 14 年東京帝大工学部卒。新橋運輸事務所運転主任を振り出しに、運転関係各官を経て、昭和 18 年技術院第 4 部長、20・9 名古屋鉄道局長、21・3 東京鉄道局長、23・4 運輸次官に就任。24・6・1 国鉄の公共企業体移行に伴ない初代総裁に任命された。技術系統出身として異色の存在とされその才略を期待されたが、24・7・6 逝去。49 才。（中村英男）